

東京からの小学生を案内しました

秋晴れの11月22日、東京の和光小学校6年生70名が松代大本営の象山地下壕の見学を訪れ、郷土研究班の今井信繁君、森中謙斗君、峯村俊樹君、鈴木優介君、今井雄平君が高校生出前講座と云うことで案内しました。

和光小学校は10月に沖縄に行き多くの有意義な学びをする中、今度はその沖縄戦と関連が深いマツシロで語り継ぐ活動をしている高校生と交流・見学をしようと、今までは時々有志で来ていたのですが、今回は全員参加の行事にしたとのことでした。

案内した生徒の中で今井雄平君(1年犀陵中出身)は初めての大役でしたが、先輩の小出君の援助激励を得て練習を重ね、やや緊張はしたものの見事に説明し終わり、小学生から拍手を貰っていました。(写真参照)また他の班員も堂々と務めました。

壕の一番奥での交流会では様々な質問が次々と出て、班員がそれに答えていました。また感想では、沖縄のじめじめしたガマと違ってこんなに広く乾いていて驚いたなどと話してくれました。(この様子をDVD作製のためにと撮影していました)

最後に案内して貰ったお礼ということで、全員で楽器を交えての合唱を披露してくれましたが、一生懸命歌う子供達に、班員も、このような出会いが実現して良かったと感激したようです。

なお翌23日は教育委員会の清水先生の依頼で、大阪松原第7中学校の先生の下見の案内も樋口雄河君、山岸巧実君が務めました。

今年、目白押しであった案内もあとは12月3日の松川高校の先生方の案内を残すのみです。

長野俊英高校の郷土研究班は平日でも学校関係の見学に限っては赴けます。どうぞご連絡下さい。(026-292-0726 俊英高校 土屋・勝田)

